

福岡市立ヨットハーバーにおける利用状況調査

九州共立大学 工学部 学生員 ○鈴木 康晃
九州共立大学 工学部 正 員 片山 正敏

1. はじめに

都市臨海部水辺空間の利用状況に関する調査の一環として、平成5年度（北九州市の新門司マリーナ）、平成6年度（福岡市のMARINO A）、平成7年度（福岡市のホテル海の中道）に引き続き、福岡市の福岡市立ヨットハーバーにおいて、平成8年7月～8月の間、①属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について「アンケート調査」を実施したので、その利用状況の概要について報告する。

2. 福岡市立ヨットハーバーの概要

福岡市立ヨットハーバーは、市民の海洋性スポーツの振興とあわせて海洋思想の普及を目的として昭和50年7月に開場した、大小約540隻のヨットの収容能力を持つ日本でも有数の公共ヨットハーバーである。地理的にも博多駅から約10kmと都心部から至近距離に位置しており、東に小戸公園、西に生の松原を控え、ヨットのセーリングに最適の条件を備える今津湾を望むすぐれた環境にある。

3. アンケート調査の場所、概要

(1) アンケート調査の場所

アンケート調査は、福岡市の福岡市立ヨットハーバーで行った。福岡市立ヨットハーバーの場所を図-1に示す。

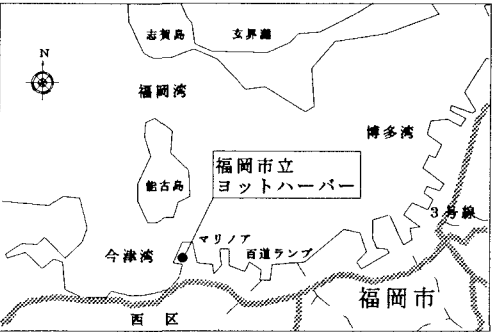


図-1 アンケート調査場所

(2) アンケート調査の概要

アンケート調査の概要を表-1に示す。

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	福岡市立ヨットハーバーへの来訪者全員
調査期間	平成8年7月～8月の11日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
回収人数	286人
有効回収人数(率)	272人 (95.1%)

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

4. 来訪者の属性

(1) 来訪者の年齢、性別

来訪者は、約27%が20歳代で、続いて10歳代が約22%、30歳代が約20%を占めており、夏場のマリンレジャーの特徴が現れている。

(図-2参照)

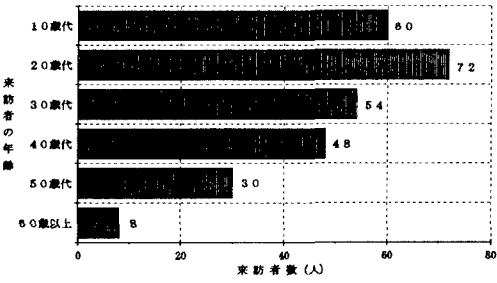


図-2 来訪者の年齢

また、来訪者の性別では、男性が約65%と女性を上回っている。

(2) 来訪者の職業

来訪者の職業は、約39%が会社員と回答しており続いて学生が約32%となっている。学生が比較的多かったのは、学校での部活動・サークル活動による利用のためである。

5. 来訪者の来訪目的・来訪回数・来訪頻度

(1) 来訪の目的

来訪目的（複数回答）は、セーリングが約64%と全体の半数以上を占めている。（図-3参照）

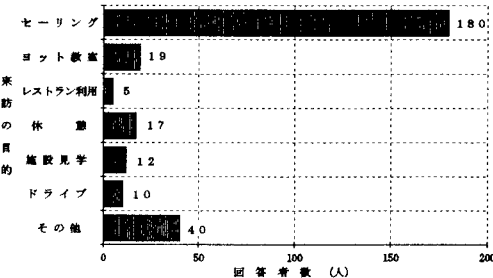


図-3 来訪者の来訪目的

(2) これまでの来訪回数

来訪回数は、40回以上の人が約61%と多く、ヨットハーバーを何回も利用していることがわかる。

(図-4参照)

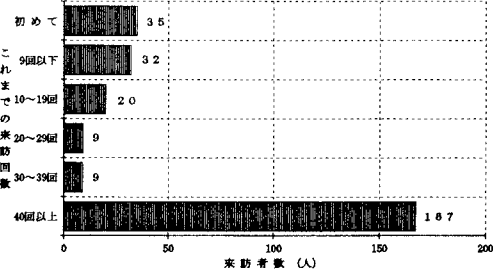


図-4 これまでの来訪回数

(3) 来訪の頻度

ヨットハーバーへの来訪頻度を図-5に示す。1～2回/週の人が約36%と最も多く、続いて3～4回/週の人が約22%、1～2回/月の人が約15%となっている。交通手段は、公共交通機関の利用が不便なため、約70%の人が自家用車によっている。

また、ヨットハーバーまでの所要時間は、30分以

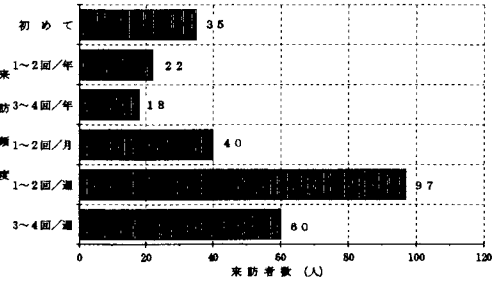


図-5 来訪者の来訪頻度

内が約54%、30分～1時間が約31%と比較的近距離からの来訪者が多く、2.5時間以上の遠距離からの来訪者は約2%と非常に少なく、地域に密着した施設であることがわかる。

6. 施設の利用状況

(1) 利用時の同行者

ヨットハーバー利用時の同行者は、親しい友人・知人が約44%と多く、続いてサークル仲間が約27%、家族が約15%となっている。（図-6参照）

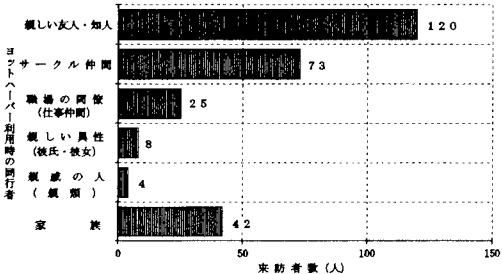


図-6 ヨットハーバー利用時の同行者

(2) 利用時の人数、利用（滞在）時間

ヨットハーバー利用者の人数は、4～5人が約29%、10人以上が約25%と、比較的多人数での利用が多い。また、ヨットハーバーの利用時間は、5～7時間が約29%、続いて3～5時間が約27%と比較的長時間にわたる利用者が多い。（図-7参照）

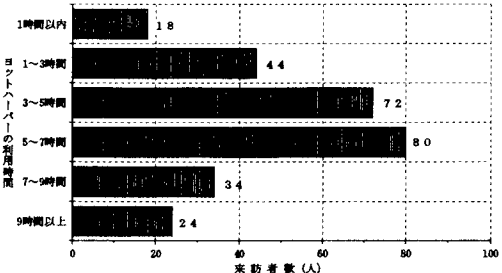


図-7 ヨットハーバーの利用時間

7. おわりに

福岡市の福岡市立ヨットハーバーにおける利用状況についての「アンケート調査結果」より、この種施設の基本計画データが得られた。

最後に、今回の調査に御協力・御助言をいただいた福岡市立ヨットハーバー、九州共立大学の関係者に感謝いたします。